

# 和歌山市立野崎西小学校

## 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

### 調査内容

実施日：平成31年4月18日(木) 実施対象：6年生 3学級 73名

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則としています。今年度よりAB区分がなくなり、国語・算数の2教科について、「知識」と「活用」の2種類の問題が併せて出題されています。

### 教科調査の結果分析より

《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

※概要について、よかったことにも触れながら記述する

- 課題①情報を相手にわかりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えるや、目的に応じて質問を工夫する内容はできている。
- 課題②文と文とのつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書くことは苦手。
- 課題③話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめるのは苦手。



接続詞の使い方等の文法の練習を昼学で行う。一文を長々と書くのではなく、できるだけ短文で書く練習を通したうえで、接続詞の適切な使い方を理解させる。また、「聞く力」から「聴く力」が身につくよう、子どもの実態に合わせてながら、より良い言語活動・発問を行うなどの授業改善を行っていきたい。言語について知識・理解・技能を反復練習で正確に定着させる必要がある。

《算数科の調査結果に見える本校児童の傾向》

※概要について、よかったことにも触れながら記述する

- 課題①量と測定や数量関係は概ね理解できている。
- 課題②減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述できるが弱い。
- 課題③複数の数量から必要な数量を選び、立式することが苦手など、「数と計算」に課題がある。



四則の性質を理解しながら、正確に速く計算でき、それらを活用できる力をつけさせる必要がある。低学年では、ブロックの操作や絵に表す活動。中学年以上では、言葉や線分図（テープ図）などを使って表す活動をたくさん取り入れていきたい。また、既習の内容を用いた発展的な学習にも慣れ親しむ必要がある。「数と計算」の学習内容の配列をきちんと把握した上で、活用も含め、系統的なプリント作成や、復習を十分行った上で発展問題に取り組む等授業内容も改善していく必要がある。

## 質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

### 《自尊感情が強い》

自分には良いところがあると感じ、先生からも自分の良いところを認めてもらっているという意識を持った子どもや、物事を最後までやり遂げて、うれしかったと感じる子どもが多い。また、将来の夢や目標を持っている児童も多く、人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が全国平均よりも 10%以上上回っている。

### 《学校の決まりや「いじめ」に対する意識》

96%の児童が「いじめ」はどんな理由があってもいけないと感じている反面、学校の決まりを守っている児童は 62%なので、この 2 点を自信を持って実行できているといえる児童の育成に努めていきたい。

### 《家庭学習・読書》

家で自分で計画を立てて勉強をしていると答えている児童は 30%である。習い事の時間を除けば家庭学習の時間は十分とはいえない。自主学習ノートの啓発やうちどくの定着等家庭の協力を得ながら進めていく必要がある。読書・新聞などの活字離れも気になる。

### 《基本的生活習慣について》

「朝ご飯を食べている」「決まった時間に寝起きしている」はほぼ全国並みだが、アンケートにはない「テレビやゲームに費やす時間」を減少させるのが本校の課題である。

### 《地域との連携について》

地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますかが 11%、今住んでいる地域の行事に参加していますかが 33%と低い。今後コミュニティースクールを進めていく上でも、地域の大人に勉強やスポーツを教えていただいたり、一緒に活動することを通して、地域とつながる手立てを考えていかなければならない。

## 調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

### 《補充学習の充実》

評価問題を中心とした教材を学年ごとに整理準備し、繰り返し継続した指導を進め、基礎学力の徹底をはかっていきたい。そのためにはこれまで同様、学習支援員の協力を得ながら月曜日と金曜日の放課後にフォローアップの時間を設け、個に応じた支援的な補習を行っていく。

### 《長期休業中の補習》

学年単位で希望する児童を募り、2 時間×3 回程度の補習を実施している。補習の効果をより高めていくため、休業中のみならず、個人的に実態に応じた補習を考え、参加者数を増やす必要がある。

### 《授業形態の確立》

「和歌山の授業づくり基礎基本 3 か条」をすべての教科においてすべての教師が実践すること。導入に時間を取り過ぎず、自分で考え自分の言葉で友達に伝わるような発表ができる子どもの育成を目指して、授業改善に努めていく。

### 《自主学習ノート・うちどくの推進》

自主学習ノートの見本を提示するなど、クラス全体で共有できる工夫を通し、全員が自分に合った自主学習ができる手立てを行う。また、金曜日に出す「うちどく」の宿題も、家庭とともに取組を進められるよう啓発を続けていく。